



# かがやき

菊川市立小笠北小学校 学校便り

学校教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」

重点目標 「気づき 考え 挑戦する子」

令和8年1月30日

日頃より、学校の教育活動への御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。児童や保護者の皆様のアンケートの結果を受け、来年度の教育活動を考えていきます。

## 1 児童アンケート結果(令和6、7年度の12月調査結果を比較)

肯定的評価: 当てはまる どちらかという当てはまる ほぼ毎日 週3回以上

90%以上

	R6 %	R7 %
	肯定	肯定
1 学校が楽しい	91.4	90.6
2 みんなで何かをするのは楽しい	97.5	96.5
3 自分にはよいところがある	86	90.8
4 国籍、性別、年齢など、分け隔てなく関わっている		89.9
5 進んであいさつしようとしている	88.9	81.7
6 授業に主体的に取り組んでいる	92.9	88.5
7 授業がよくわかる	92.3	89.4
8 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている	88.1	84.7
9 相手の思いや考えを最後まで聞いている	91.1	91.2
10 相手を意識してわかりやすく伝えようとしている	75.3	92.0
11 分かったことをたくさん書ける	87.4	86.2
12-1 授業で iPad を使って調べ学習をした	73.6	83.4
12-2 授業でパソコンや iPad を使って、友達と意見の交流をした	72.5	63.8
12-3 授業でパソコンや iPad を使って、自分の考えを、まとめたり発表したりした	62	55.9
13 学校に、信頼することのできる先生がいる	95.6	93.5
14 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	88	78.8

**アニマルズ**  
**きたしょう★神獣**



## 2 保護者アンケート結果(令和6、7年度を比較)

数値は、「当てはまる」と「どちらかという当てはまる」を合わせた肯定的な回答数値

	R6 %	R7 %
1 わが子は、学校生活を楽しんでいる	97	94
2 わが子は、学校でみんなと何かをするのが楽しいと感じている	98	98
3 わが子は、授業の内容がわかっている	89	84
4 わが子は、宿題に進んで取り組んでいる	78	75
5 あなたは、子どもを認める声かけをしている		95
6 わが子は、家で読書をしている	63	53
7-1 SNSやゲームのやり方や時間など、家での約束がある	89	84
7-2 ある)わが子は、SNSやゲームの約束を守っている	58	81
8 わが子は、規則正しい生活をしている	47	91
9 わが子は、睡眠時間をとれくらいとっているか	9時間以上 8~9時間 7~8時間 7時間未満	29 55 15 1

## 3 成果と課題

### (1) 成果

ア 児童、保護者ともに「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の数値が、3年連続90%を超えました。これは、本校の取組である「挑戦の木」や「ボイスシャワーキャンペーン」による「お互いの良さを認める実践」の成果だと考えます。また、児童アンケート「自分にはよいところがある」の数値が90%を超え、保護者アンケート「あなたは、子どもを認める声かけをしている」の数値も95%でした。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの自己肯定感を高める取組ができていると言えます。

イ 「国籍、性別、年齢など、分け隔てなく関わっている」の数値も約90%でした。相手を思いやる言葉遣いや行動、トイレの使い方、安全な休み時間の過ごし方、聴き方など、みんなが気持ちよく生活できる「思いやり環境」について、子どもたちが意識して行動した成果だと考えます。多文化が共生している状態である本校において、一人一人が相手を大切にしていける姿がたくさん見られ、学校という場が学習だけでなく、生きる力を育む場所になっていると言えます。

### (2) 課題

ア 「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよく分かる」の数値が90%に達しませんでした。テストで評価する「目に見える学力」に加え、自ら学びを深める学び方を習得することができるようになっていく必要があります。「分からなかったこと」と「学んだこと」をはっきりさせ、子どもたち自身が問いを生む振り返りができるような授業づくりを行い、子どもたちの主体的な学びを支えていきたいと考えます。

イ 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の数値が昨年度より9%減少しました。子どもたちが学校生活で学んだことが「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしいと考えます。そのため、地域の人やものと関わりながら学ぶ総合的な学習の時間等を活用しながら、地域を身近に感じるような活動を行っていききたいと思います。

ウ 「わが子は、家で読書をしている」の数値が減少しました。学校でも読書に触れ合う機会を増やし、読書が習慣的に行われる取組を行いたいと思います。

## 4 学校運営協議会、民生児童委員、地域の方から

- (1) 自由にタブレット端末を使って学習している状況が見られた。グループで行う授業は、大人になってからのサークル活動へとつながる。子どもの頃からそういう活動があるとコミュニケーション力が上がると感じた。
- (2) 楽しそうに授業を受けていて安心した。外国籍の児童もたくさん増えてきている。様々な学び方があるとよい。
- (3) 昼休みの図書ボランティアや花壇を活用したフラワーパワー大作戦など、地域の方との活動が増えている。
- (4) 学習への意欲や取り組む姿勢が課題だと感じる。友達と教え合ったり伝え合ったりする活動をもっと増やしていったらよいと思う。
- (5) 読書・フラワーパワー大作戦などの経験したことを絵手紙などで楽しんで書いたり、ボランティアに参加したりすることで、家族・地域・友達などとかかわる活動を通してさらに自己肯定感を向上させたい。